

園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。通常、毎週金曜日の午後に、学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループを開催しており、その中で季節に合わせて園芸療法プログラムを実施していたが、今年はコロナ禍の影響で、従来通りの活動を行うことが難しかった。前期は入構禁止、学内でのグループ活動は開催禁止となったためである。このため、前期は学生不在の中、スタッフのみで園芸療法スペースの畑の整備、管理運営を行った。幸い、後期は大学が立ち入り制限を段階的に解除し、金曜Reアワーも再開できることになった。コロナ禍が続いている現時点で、今後どうなるかわからないが、ひとまず学生向けに園芸療法が実施できることに感謝したい。

まず、前期の活動について報告する。専任カウンセラーであり園芸の専門家でもある青木が今春退職したため、事務スタッフである梅原と田中、カウンセラーの筆者の三人が担当した。今後どうなるかわからないが、いつでも学生向けの園芸グループが実施できるように、そして通年通り学生相談室に草花を飾ることで来室者に季節を感じてもらえるようにという目的で、

園芸作業を行った。また、五月に学生相談室が学生向けにメッセージを発信すべく立ち上げた新型コロナウイルス特設サイトの中の「植物たち」のコーナーに、相談室内の畑やプランターの写真を上げている。直接大学に来ることができない学生に四季折々の花や野菜の成長を見てもらえるよう月一回のペースでアップしている。

四月、新学期に向けてプランターにパンジーの寄せ植えを行い、18号館入り口の駐車場に設置した(写真①)。五月は畑を耕し、畝を作り、秋に収穫するべくサツマイモ(ナルトキントキ)の苗を植えた。六月初旬、畑の空きスペースを耕し、キュウリ、トマト、落花生の苗を植え、プランターにラディッシュの種をプランターに植えた。六月中旬、夏に向け新たにプラン



写真① パンジーの寄せ植え

ターの整備を行った。丈夫で暑さに強いパニクタワープენტラの苗を植え、メキシカンマリーゴールドを植え替えた(写真②)。そして秋の開花を狙い、コスモスの種(黄色とピンク)を蒔いた。ラディッシュは思った以上に育てることが難しく、芽は出たものの、葉が虫に食べられ、ほとんどない状態になっ



写真② パニックパワーペントス

てしまった。実も小ぶりで四個しか収穫できず残念であった。虫対策と追肥についても検討し、秋に再チャレンジをした。六月下旬にトウモロコシの種を畑に植えた。

六月下旬トマトを二つ初収穫できたが、虫にかじられた跡があった。また鳥害だろうと思われるが、数個地面に食べられた状態で数個落ちていた。無農薬野菜の難しさを実感した。七月、葉が青々と茂っている状態のサツマイモのつる返しを行った。春から毎日畑の水やりを行っていたが、今年は梅雨が長く雨量が多かった。水のやり過ぎがキュウリとサツマイモの成長によくないことが調べて分かったためスタッフ間で水やりの頻度を減らすことにした。トマトは順調に育ち、鈴なりに実をつけるように



写真③ トマトの実



写真④ キュウリの花

本だけであった(写真④)。このように、知識を持たないスタッフが園芸作業を行ったため、昨年までのように野菜がうまく育たず、思うように収穫ができず、試行錯誤の連続であった。しかし、スタッフ三人で協力し話し合いながら、本やネットの情報や園芸店からの助言を実践することで、次回に活かせる何かを得られた。反省点は多いが、私たち自身楽しみながら作業できたように思う。

続いて後期について報告する。九月中旬より相談室に通っていた男子学生が畑にかかわりたいと希望したため、個人の園芸療法を開始した。大根を育てたいと言うため、畑の一面を耕し、畝を作り、十月初旬に大根の種を二種類(大小)植えた。現在、週一〜二回畑を見に来て、水やりや、間引き、雑草抜きなどの世話をしている。成長し始めた苗をいとおしそうに見ている彼の姿を見ると、あらためて植物の持つパワーを感じる。今後

なり、七月末には週三〜四個ずつ収穫できた(写真③)。残念ながら、キュウリについては、花は咲くもののなかなか実をつけることはなく、食べられるまで育ったのは最終的に一



写真⑤ 大根畑



写真⑥ サツマイモ堀り（金曜 Re アワーにて）

継続して見守っていききたい（写真⑤）。そして、金曜 Re アワーが、感染防止対策と注意を心掛けながら再開できるようになった。前年度までは園芸療法に加え、収穫野菜を使った調理プログラムを実施していたが、今期はコロナ対策として会合飲食禁止のため行わなかった。

十月二三日に晴天の中、サツマイモ堀りを実施した。参加学生は六名であった（写真⑥⑦）。当日初めて会った者同士もいたが、協力してお互い助け合いながら作業をしていた。目当たりの違いによるものなのか、畑の場所により収穫量や個体のサイズに差は出たものの、なんとか学生に配れる量の収穫ができた。また、落花生も収穫できた（写真⑧）。できないので、料理のレシピを書いたプリントを配布した。内容は「電子レンジ



写真⑦ サツマイモ収穫



写真⑧ 落花生収穫

で作るサツマイモ塩バター」「サツマイモの肉巻き」「炊飯器で作るサツマイモの炊き込みごはん」など手軽に簡単にできるものをチョイスした。また、収穫したサツマイモは、一二月一日の絵手紙のプログラムの時に絵のモデルとしても利用した。

今後の予定としては、一二月二五日に、ガーベラやカーネーション、アンズリウムなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを製作する予定である。

今年は、コロナ禍で制限のある中、昨年と違う方法や工夫が必要となり、私たちスタッフは、成功と失敗を日々繰り返しながら運営を行った。来年度も先行きの見えない中、学生相談室という限られた場で自然に触れ合える機会を学生に提供できるように努力していきたい。命ある植物を扱う難しさを伴うが、旬

の時期に旬の野菜が収穫できて学生に季節を楽しんでもらえる
よう今後も研鑽を積んでいきたい。

（渡里 千賀）